

「コーヒー焙煎でひもとく、
檜原村の炭焼き文化」開催！

昨年12月7日、笹平のヴィレッジヒノハラで、都民の森から提供していただいた白炭を使ったコーヒー焙煎&試飲会を開催させていただきました！

このイベントは、コーヒーを通じて檜原村の炭焼き文化を紹介することが目的です。毎年秋川流域で開催されている、「アートストリーム」という芸術祭のワークショップの一つとして、また檜原村のエコツアーの一つとして開催することができました。

都民の森の炭焼き体験イベントで講師をしている大谷さんをお招きし、炭焼きや山仕事についてお話していただくことで、深みのある企画になったと思います。

今回は、マンデリンとジャバ・ロブという、インドネシア産の2種類のコーヒー豆を使用しました。参加した方々に、火鉢の上で手網式焙煎器を振っていただき、立ちのぼる香ばしい香りや、豆がパチパチ弾ける音などを体験していただきました。みなさん「本当に炭でコーヒー豆が焼けるんだ」と感動されているようでした。

焙煎の後は、ネルという布製のフィルターでコーヒーを淹れ、焙煎したのコーヒーを飲み比べ。味の違いが分かる、と言っていたことができ、ホッとしました。

今後も繰り返し、このイベントを開催していきたいと考えています。炭焼きコーヒーを味わってみたい方や、炭焼き文化に関心のある方の参加をお待ちしています！（松本）



群馬県で、ドラム缶炭焼きの
視察をしてきました！

昨年12月27日、私の出身地である群馬県で、ドラム缶を使った炭焼きの視察をさせていただきました。

加工したドラム缶を軽量発砲コンクリートで囲み、鹿沼土（かぬまつち）、または土と乾燥した草を混ぜたものをかぶせることで、窯の内部が100℃以上の高温となり、約3時間で竹炭、約5時間で白炭ができるそうです。作成者の名前を取って岩崎式炭焼き窯と呼ばれています。

群馬県みどり市に設置した窯の、初めての火入れに立ち会わせていただくことができました。前日雨が降り、かぶせた土が湿っていたことや、初めての火入れで温度が上がりにくいことが原因で、窯の中の最高温度は96℃ほどでした。しかし、約3時間で、硬質な竹炭が完成しました。

その後、桐生市に設置されたドラム缶窯の見学をさせていただきました。こちらは令和7年の春頃にテレビの取材に使われた窯で、木材を焼いた白炭がありました。また、同じ場所に作成途中のドラム缶窯があり、窯の下部に設置するロストル板（金属のスノコのようなもの）の作成と、蓋をアングル材で補強できる方が見つければ、無償で提供していただける、とのことでした。村内に釜が設置できれば、炭焼き体験の実施や、焼いた炭をコーヒーの焙煎に使いたい、と考えています。金属加工が得意な方などの情報がありましたら、ご一報いただけると嬉しいです。（松本）



自然観察記

冬の山林は一見すると寂しげです。多くの木々が葉を落とし、色彩を失ったかのように見えますが、よく目を凝らすと生命の営みが続いていることがわかります。枝の先々に、来るべき春に備え冬芽（ふゆめ・とうが）を付けているのです。冬芽とは、春に花を咲かせたり、葉を茂らせたりする越冬用の芽のことです。それぞれ花芽（かが・はなめ）、葉芽（ようが）と言います。中にはふたつあわさった混芽（こんが）というものもあります。

冬芽の魅力は、その多様性にあります。冷たい風や乾燥、霜など冬の厳しさから芽を守るために鱗のようなものをまとったり、フサフサの毛で覆われていたり、樹木の種類によって様々な個性が見られます。葉を落とした樹木でも、冬芽を観察することでその木がなんの木なのかを判別することができます。この冬、ぜひルーペがあると便利ですが、肉眼でも十分楽しむことができます。この冬、ぜひ木々の春支度の様子を観察してみてください。春になったら答え合わせも楽しめますよ。（林）



ヤマブキ (バラ科)
水滴型で枝に密着する。



クロモジ (クスノキ科)
花芽はタマネギ型。



アカメガシワ (トウダイグサ科)
裸芽で、星状毛が密生。



オトコウズメ (ガマズミ科)
小豆色でツヤがあり、無毛。



コブシ (モクレン科)
花芽は大きく、毛に覆われた厚い鱗片に包まれる。



イヌシデ (カバノキ科)
多数の芽鱗に包まれた水滴型。



オオイトヤメイゲツ (ムクロジ科)
短い円錐形。仮頂芽が2個並ぶ。



エゴノキ (エゴノキ科)
長卵形で裸芽。



マンサク (マンサク科)
花芽は卵形で2~4個集まる。



林 陽浩 (はやしあきひろ)
1976年生まれ。東京都出身。
千足在住。着任11ヵ月目。
趣味は登山と観瀑。
推しは三頭山と菅平の滝。



空き家ありませんか？

空き家の相談受付中

檜原村役場むらづくり推進係まで！

☎042-519-9556

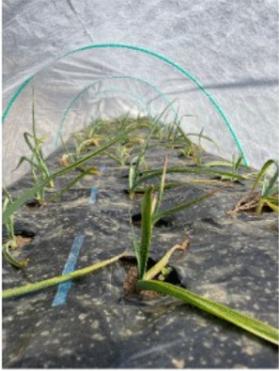
檜原村で始める自然農法

にんにく栽培の記録

異なる環境で育つにんにくの成長を観察

① 千足の畑

10月中旬に植え付けを行った畑。日照時間が比較的短い場所ではありますが、その分、ゆっくりと時間をかけて成長しています。現在、古い芽の一部がやや茶色くなっていますが、気温が上がってくる4月以降の回復に期待しています。ここの土地はほぼ平地となっています。



② 小沢A地区

11月13日に植え付けを行った畑。3か所の畑の中でも特に日照時間が長く、現在は葉の張りや伸びが最も良好な状態です。生育の勢いがあり、全体的に色つやもよく、大きなニンニクの球が期待できそうです。ここは、師匠の谷谷さんから畑の一部を間借りして栽培しており、土づくりも十分に進んでいます。傾斜地のためニンニクに限らず、何を植えても良い作物が育ちそうな、ポテンシャルの高い畑です。



③ 小沢B地区

小沢A地区と同じく11月13日に植え付けを行いました。日照時間は中程度の環境です。現在の成長具合は、千足の畑と小沢地区Aのちょうど中間といった印象で、バランスの取れた生育状況となっています。3か所の中では芽の成長スピードが最もゆっくりですが、これから本格的な寒さを迎えることを考えると、この程度の生長が結果的に良い方向に働く可能性もあると感じています。ここはほどよい傾斜地です。



次回の4月号でもにんにく栽培の報告をします。応援のほどお願いいたします。

作成者：高橋

地域おこし協力隊へのご依頼は
檜原村役場 むらづくり推進係へ

☎042-519-9556

協力隊各種 SNS は
QRコードから！



年が明けてからはほとんど雨が降りませんね。弘沢の滝、冬滝まつり実行委員会のメンバーとして、滝の結氷率確認に行っています。沢の水量がとも少ないです。空気も乾燥しており、山林火災が多発しています。火の取り扱いに注意しつつ、恵みの雨(雪)になつてしまうかもです(…)を待ちたいと思います。(松本)

編集後記



地域おこし協力隊 メンバー

まつもと よしふみ なかざわ だいき
松本 圭史 中澤 大樹

たかはし まさき はやし あきひろ
高橋 政樹 林 陽浩

村内で見かけたら、お声かけください！

空き家相談窓口のご報告

今更ですが、空き家相談窓口の紹介をしたいと思います。

「空き家をどうしたらいいかわからない」「相続したが手つかず」「売るか貸すか決めきれない」—そんな声を受けて、空き家相談窓口を設置しています。相談と聞くと「結論を出さないといけない」「何か契約させられそう」と不安に思う方もいるかもしれません。しかし、窓口の役割は、「営業」ではなく、状況を整理し、次の一歩を一緒に考える案内所です。まずは「今の困りごと」を話すところから始めてみませんか。

空き家の問題は、建物の傷みだけでなく、相続や名義、家族の意向、費用、近隣への配慮など、複数の要素が絡み合っ



だからこそ、最初に必要なのは「何か手を付けるべきか」の整理です。空き家相談窓口では、相談者の状況を丁寧に聞き取り、現状を「見える化」した上で、選択肢と段取りを提示します。相談の流れは、大きく分けて次の三つです。

第一に、状況のヒアリングです。空き家の場所や利用状況、建物の状態、相続の有無、家族構成、今後の希望(売却・賃貸・管理・活用など)を確認します。「まだ何も決めていない」という段階でも問題ありません。

第二に、必要書類や手続きの案内です。固定資産税の通知書、登記事項(名義の確認)、現況写真など、次の検討に必要な情報を案内します。書類が手元になくても大丈夫です。何が必要かを把握することが、次の一歩につながります。

第三に、関係機関・専門家への橋渡しです。相談内容に応じて、司法書士や不動産、修繕・解体、片付け等の専門分野になくことがあります。窓口が“入口”となり、司法書士との相談も相談窓口が行いますので、ご安心ください。

空き家相談窓口は、「売る」「貸す」を急がせる場ではありません。焦って判断して後悔しないために、情報を整理し、家族と話し合う材料をつくる場です。「放置してしまっている」「遠方で動けない」「近所から苦情が来る前に何とかしたい」など、どんな理由でも構いません。悩みが小さいうちに相談するほど、選べる手段は多く、費用や手間も抑えやすくなります。

最後に、よくある質問を紹介します。

Q: まだ売るか貸すか決めていません。相談していいですか？

A: もちろんです。決める前の“整理”が相談の目的です。

Q: 書類が手元にありません。

A: 問題ありません。必要なものを確認し、準備の順番を案内します。

Q: 相談したら契約しないとダメですか？

A: いいえ。窓口は案内・整理の場です。無理に進めることはありません。

多くの方にご相談をいただいておりますが、「こんなこと聞いてもいいのかな？」ということでもお気軽にご相談ください。(中澤)